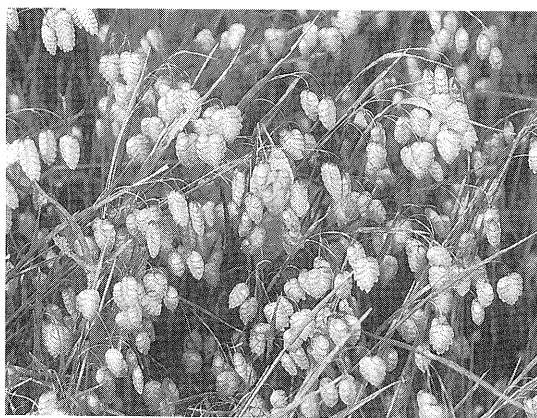


編集後記

今号の「シリーズ外来雑草は今」では「牧草が強害雑草へ変身—ネズミムギ—」を取りあげた。ネズミムギ、牧草名イタリアンライグラスは畜産農家にとっては優良牧草で北海道から沖縄まで最も重要な牧草の一つとして栽培されている。しかし雑草化したものは都会地でも道端やグリーンベルト、空き地などにホソムギとともに群生し花期の6~7月には多量の花粉を飛散させて花粉公害の元凶となっている。

また、最近は園芸品種として観賞用に導入されたものが逸出して雑草化しているものも多くある。

例えばコバンソウも



▲コバンソウ

その一つである。コバンソウはヨーロッパ原産のイネ科の1年生で耐旱性が強く土壌の種類を選ばなくて生育する。コバンソウは夏、茎先に扁平でやや大きな小判の形をした小穂を10数個垂れ下げてつける。熟すと黄金色になり風が吹くとゆれるので、鉢植えにして窓

辺などに置くと黄金色の小判がゆれている感じで、涼しさとともに金持ち気分を味わせてくれる楽しい観賞植物である。このように鉢植えにして個人的に楽しむ限りには園芸植物として何も問題にならない。しかも秋になって枯れたものを他に飛散しないように処置すれば雑草化することはない。ところがこれを

何気なく、空き地や街路樹の植込みなどに捨てるとそれが原因となって雑草化して広がって行く。私の住む八王子市郊外の街路樹の植込みにここ2~3年にコバンソウが雑草化して急激に殖え、秋に枯れると美観を著しく

損ねている。最近カミツキガメ、アライグマなど外来動物の逸出が問題になっているが、植物でも同じことである。外来動物・植物を飼育や栽培する人は自己責任を全うして最後は迷惑を及ぼさないよう完全に処理して貰いたいと痛感するこの頃である。 ㊦

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03)3832-4188 (代)
FAX (03)3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

発行所 東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
植調編集印刷事務所
電話 (03)3833-1821 (代)
FAX (03)3833-1665
E-mail: hon@zennokyo.co.jp

平成18年7月発行 定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第40巻第4号

(送料 270円)

印刷所 新成印刷(有)